

びぶりおてか



同志社大学図書館報 No.46 1989. 10. 1

情報化時代における図書館の役割

図書館長 島 弘

現代社会は情報化時代と言われている。確かに情報という言葉が溢れている。大学だけをとっても、情報経営学部の設立ブームである。しか

し、他方では情報という言葉は何を意味しているかについてはあまり明らかになっていない。情報の概念を広くとれば、世の中のあらゆる現象がすべてその概念の中に入ってしまう事になる。井戸端会議から大学の授業のすべてが情報の伝達・交換という事になってしまう。そのように解釈すれば、それは人類の発祥以来の現象であると言わねばならない事になる。では、このような情報化時代と言うのは何を意味するのであろうか。それはその存在する情報の量が格段に異なり、その処理の速度が飛躍的に高まり、さらにその伝達速度が飛躍的に高度化し、情報が人間生活に与える影響が抜本的に異なる事を意味するのではなかろうか。

従来大学において情報をもっとも蓄積していたのは図書館ではないであろうか。そこに蓄積された文献・データ等は大学内でもずば抜けた量になるであろう。少なくとも文書の形で存在する情報についてはそのように言えるのではな

目次

情報化時代における図書館の役割……	1
思いがけぬ出会い	
—在外研修中の思い出—……………	3
目録の種類と調べ方(今出川)…………	5
ラーネッド記念図書館	
蔵書構成と図書利用状況(概況)……	7
1985—1988 図書館(今出川)利用統計…	8
図書館(今出川)新分類図書蔵書統計…	9
文献探索	
音楽に関する二次文献……………	10
ピックアップ	
第1回・第2回	
衆・参議院図書館運営委員会	
会議録について……………	12

かろうか。このような情報の蓄積は蓄積自身としても意味はあるわけであるけれども、それが研究と勉学の用に供される事を考えれば、その情報は利用に便利のように整理される事が必要である事は言うまでもない。このような情報の整理においては、現在のコンピュータは人間の数十倍の能力を持っている事は周知の事実である。この能力をわれわれが使わないと言う事は時代遅れも甚だしいと言わねばならないであろう。

蓄積された情報が研究・勉学のためであるとすれば、それを利用するためには、必要な資料が出来るだけ早く探し出される事が大切である。すなわち、検索である。この能力も、コンピュータは人間の能力をはるかに凌駕する事は言うまでもない。図書・資料の検索がコンピュータになってからあまり日が経っていないので、その使用方法に戸惑いがある事は確かであるが、これは利用者側の慣れの問題であると思う。コンピュータによる図書・資料・データ等の検索の可能範囲の拡大は、その内に、数百倍に増大するのはそんなに遠い将来の事ではないと考えられるので、この検索のコンピュータ利用はかなり重要な一步であると言う事が出来るであろう。

図書・資料の検索を行う可能範囲の拡大可能性の増大と言えば、この能力こそが情報化時代の真骨頂ではないかと思う。われわれは現在地球の裏側で発生した事件が瞬時にテレビの映像として現れる事を知っている。また、アメリカのウォールストリートにおける株式市場の激変が東京の兜町の株式相場に瞬時に影響を及ぼす事を見ても明らかであろう。その伝達の速度は十年前に比較しても十倍を超えるのではなかろうかと思う。そのように考えれば、図書・資料の検索についての電算化は、現在のように同志社大学内だけでも、各学部の文献・図書が研究室において検索し得るという事になる。今までは、図書館あるいはありそうな研究室へ出かけて行って、図書カードを調べる必要があったものが、研究室の端末機を操作するだけで可能となるのであり、その検索に必要な時間の節約は大きなものがあり、研究活動への貢献は大きいものであろう。それだけではない。その検

索能力は、人間の数十倍であるので、端末機による検索は、必要な図書・資料だけではなく、研究主題に関連した文献や資料が一瞬にして検索できるという便利さを持っているのである。この能力を活用すれば、文献・資料を渉猟するという研究のための準備段階に必要な時間を大きく節約できるものと考えられる。その意味でもこの貢献は大きいものと思う。

現在図書館では、来年4月より『学術情報システム』に参加する予定になっている。これは現在文部省によって推進されている学術情報の情報システム化の一つであって、全国に存在する千数百の大学図書館を『情報システム』として統合しようとするものであって、これが実現すれば、現在同志社大学内で実現している状態が、日本全国の大学図書館に拡大するという事になるのである。すなわち、必要な文献・資料・図書等が全国規模で瞬時に検索可能となる事を意味しているのである。もちろん現在の段階では、全国の大学の全部が加入しているわけではないので、一定の限界があるけれども、これは恐らく近い将来において全体に拡大するものであると考えられる。現在でも全国の主要な大学図書館は殆ど加入しているので、その便宜さは大きなものがあるであろう。すなわち、今までのように、一定の目安を立てて、いくつかの大学を選定して、その大学に文献所在目録があればそれで、無ければ同志社大学図書館を通じて、該当図書館に問い合わせをするか、あるいは該当大学の友人に検索してもらおうかの方法をとっていたのである。この手続きが不要になる事は重要である。

『学術情報システム』への加入は、将来はこのシステムが外国のシステムやデータ・ベースに接続する事が予定されているので、そうなれば、世界的な規模での文献検索が研究室で可能になる事になるであろう。そうなれば、大学図書館は、全世界の研究情報の、大学における最も重要な情報センターとなるであろう事は間違いないであろう。このような夢が実現する事も、現在の科学技術の進歩の状態から言ってその現実化はもうすぐであると言うことが出来るであろう。

思いがけぬ出会い

——在外研修中の思い出——

谷口 宇平

私は昨年7月中旬から11月中旬まで欧米の図書館を視察して回る機会を得た。なるべく多く大学や大学の図書館を回り多くの図書館関係者に会おうと決意し、事前に諸先生・諸先輩から懇切丁寧なご指導やご紹介を得るなど相当の準備をした。その効果もあり4カ月余りであったが思いがけぬ方々にも多くお会いすることができた。各国の図書館事情については人事課へ提出した報告書を参考にしてもらおうことにし、ここでは思いがけぬ出会いを3つ紹介したい。

《その1》

7月25日午後にはロンドン大学SOAS (School of Oriental and African Studies) の日本朝鮮関係文献担当のヒックマンさんにお会いした。SOASは1917年に創設されたもので名称が示す通り東洋アフリカの言語、過去と現在、文学、歴史、宗教、慣習などの教育研究を行うための機関であり学部・大学院が併設されている。ヒックマンさんは非常な日本真で日本語文献に精通しておられ、日本語をまじえ館内の説明をしてくださった。3時間余り案内と説明を受けた後帰り際に「これは大変面白いですよ。是非お読みなさい。」と言って1冊の本をくださった。それは『戦中ロンドン日本語学校』(大庭定男著・中公新書)と言う日本語の本だったので私にとっては予期せぬ貴重物だった。

この本を読む暇もなく、その後7月28日に大英図書館を訪ねた。大英図書館の本館は大英博物館の1画を占めている。もともと博物館の1部門だったが数年前独立した。現在本館の近くに別館が建てられており東洋文献はそこに納められている。私は案内を受けている途中で現在は第一線を引退され東洋書籍部顧問をしておられるケネス・ガードナーさんを紹介された。その時ガードナーさんに対する予備知識が無かったので軽くご挨拶し名刺を交換しただけであった。

数日がたち暇な時間がとれたのでヒックマンさんに頂いた本を読み始めた。太平洋戦争が始まり日本は破竹の勢いで南下し英領に攻め上っていた頃、英国政府は急きょ語学の英才を集め日本語特訓教育を始め、短期の内に会話と日本語文献の翻訳の出来るものを育成し前線へ送りだした。日英

関係の以外な側面を知って大変面白かったがその中にガードナーさんが出てきたのである。ガードナーさんは日本語の特訓教育を受けた後日本の戦後処理のため極東に派遣され、日本の文化習慣に接し深く関心され、その後日本研究をするなか、司書の資格を取られロンドン大学東洋部、大英博物館で働いて来られた。日本の古文書に深い関心を示し、その収集と整理に一生を捧げてこられた日本文献の権威であった。大英図書館と日本との図書交流を進める、英国のなかで日本語文献を多く持っている図書館同志で日本文献図書館グループを作り重複購入しないようにする、英国日本学会の会長を努めるなど日英交流に努めてこられた。日本政府は氏の永年の功に報い勲三等瑞宝章を贈った。

ガードナーさんに関する記述の部分はほんの一部だけれども氏の日本に対する愛情と日本文献に掛ける熱意が感じとれた。おそらくヒックマンさんも大英図書館を案内してくださったブラウンさんもオックスフォードのテラー・イズミさんもガードナーさんから多くを学びその熱意を受け継がれたのであろう。この1冊の本を通じてイギリスのライブラリアン達の心意気を改めて読み取ったのである。

《その2》

10月21日、サン・ディエゴからデトロイト行の飛行機に乗った。デトロイトからアムトラックに乗り継ぎ22・23日とアン・アーバーのミシガン大学、さらに24日にシカゴのノースウェスタン大学、シカゴ大学、法曹協会本部(ABA)を訪問した。

ミシガン大学へは元本学法学部教授の藤倉先生を訪ねていった。大学町のアン・アーバーは秋も深まり紅葉がとても奇麗であった。しかし木枯しが吹きサン・ディエゴから来た者にとっては寒さが身にしみた。お訪ねした時先生は古く重厚な法学部の建物の研究室の一室で研究をしておられた。私は事前に10月下旬頃に訪問するとの連絡はしておいたけれども具体的な日まで連絡していなかったため私の突然の訪問に驚かれた。しかし、先生は大変歓迎してくださりその日たつ予定を変更し一泊させていただくことになった。ミシガン大学

ロー・スクールは古い建物の地下にまったく新しい設計思想を基に近代的な図書館を増設していた。閲覧席が十分にとられ、かつ書架とうまく連動するようになっている贅沢なものであった。また地下3階建てどの階も側面から自然採光が差し込み、しかも側面にミラーが取り付けられそれに重厚な本館が写しだされる仕組みになっていてどの階も本館と一体のような雰囲気がかもし出されている。しかしなんとと言っても凄いのは研究テーマに必要な資料の提供を申し出ておくと直ちに文献を揃えてくれるとの事で、優秀なライブラリアンを揃えたアメリカでも最もサービスの良い図書館であると先生は関心して言っておられた。さて先生はミシガン大学のグレイ先生に宿舎のお世話になっておられ、また私の兄とグレイ先生が親しい事もあって私をグレイ先生に紹介して下さるつもりだった。しかしグレイ先生は留守のため会えずじまいで私はアン・アーバーを去ることになった。その後前述したようにシカゴを回りサン・ディエゴに戻った。

10月28日サン・ディエゴのコ罗纳ド島にある有名なホテルでABAの総会が開かれた。既に10月11日からサン・ディエゴのCalifornia Western School of Lawに私はお世話になっていたが、私を指導して下さっていたチン・キム先生がABAの総会に参加する手筈を整えて下さった。大広間に200人余りの参加者のために適当に配置された8人掛の丸テーブルの一角に私は座った。総会の挨拶と講演があったのち昼食となり、両サイドの参列者との懇談となったが、私の横に座っておられた方はなんとグレイ先生であった。私達はこの偶然に驚きしばしミシガン大学での出来事や私が何故ここにいるかなどについてお話しした。アメリカでは法曹界で活躍するためには何れかの州の法曹資格試験に合格しておく必要があるが、その資格者が現在70万人おりその内35万人がABAの加入者である。従って総会には研究者、弁護士、判事、検事、ロー・スクールのライブラリアンなど各種の人物が参加しているのだ。だから私もチン・キム先生の薦めで参加出来たのだと思う（ロー・スクールと法曹界の関係については同志社大学広報21-8 No.220参照）。それにしても今回のような会いは神の見えざる手が働いたとしか思えなかった。

《その3》

10月26日、California Western School of Lawのライブラリアンであるドップ氏の車に乗せていただきUCLAのロー・スクール・ライブラリを訪問した。UCLAは広大なキャンパスを持ち学内をスクール・バスが巡回している。また何層にもなった大きな駐車場が学内に数箇所設けられている。学内ポリスの詰所も数箇所あり、学内ポリスが常時巡回している。私達はもちろん事前に許可を取ってあったので入れた。ロー・スクールではライブラリアンのスミス氏が我々を温かく迎えてくださり館内を親切に案内説明して下さった。この図書館も米国の他の図書館と同じく機械化については著しく進んでいたが建物そのものは古く本がビッシリと詰まっていた。しかし訪問時には新館を建設中であった。

ところでスミス氏は案内途中で日本文献を担当している中島さんを紹介して下さった。中島さんはコロンビア大学ロー・スクールで働いておられたがUCLAにトレードされ最近こられたとのことだった。話が進むうちに私が法律図書館連絡会で親しくさせていただいている大阪市立大学のF氏と京大のT氏にコロンビア大学でお会いしたと話し出され驚いた。法律図書館同志の世界的連絡網であるIALL (International Association of Law Library) の総会が数年前にジョージ・ワシントン大学で開かれたが、それに参加されたお二人はその後コロンビア大学に寄せられたのだ。

その中島さんが今年の6月15日に本学に寄って下さった。館内をご案内した後、F氏とT氏を交え夜遅くまで相国寺の裏手の呑屋さんで日米図書館事情に関する事など興味のつきない話まで弾んだのだ。

思いがけぬ出会いを紹介した。これ以外にも米国議会図書館、スタンフォード・フーバー図書館、U・C・バークレーなどで日本人ライブラリアンが活躍されているのに出会った。米国弁護士資格を取るため猛勉強している日本人商社マンにも出会った。帰国の前日まで大学図書館を訪問しなければならぬ程の過密スケジュールであったが、様々なところで日本人の活躍を目にし世界の狭さを実感し欧米を身近に感じた実のある研修であった。

(法学部事務室)

目録の種類と調べ方

本年4月から当館においては資料がオンライン検索できるようになりました。図書に関しては1982年4月以降に、受入・整理したものに限ります。従ってそれ以前のもはカード目録によって検索することになります。

どの目録を検索するかは、まず図書の刊行年を目安にしますが必ずしも刊行直後に購入しているものばかりとは限りません。又過去に受入、整理したもので、目録をとり直したり、変更したりする場合があります。この場合は、切り替えや訂正を行った時期の目録に入りますから、刊行年の古い図書で見あたらない時は、新しい目録も順次検索する必要があります。

〔図書〕

受入時期によって以下の3つに区分されます

- (1) 1982年4月以降受入・整理したもの（新分類）
- (2) 1964年から1982年3月までに受入・整理したものの（新分類）
- (3) 1964年以前に受入、整理したもの（旧分類）

- (1) 1982年4月以降受入・整理したもの（新分類）
（検索方法はオンライン目録・冊子目録）

オンライン検索の方法については別の「資料の探し方—オンライン目録検索について—」を参照してください。

オンラインでひける範囲のものを別に、冊子に打ち出して図書検索コーナーに置いてあります。この紙上ではこの冊子目録についての説明をしておきます。

冊子目録は、累積版と速報版からなり、累積版は前年度末現在受入れたものが収録されており、本編、索引（書名、著者名）があります。速報版は、当該年度分を3週間に1回累積し、本編（到着順）と索引（書名、著者名）からなっています。

この索引にはそれぞれに書名・著者名・請求記号が掲げていますので全集・双書等の複数巻のあるもの以外、おおむね本編を引くことなくだいたいの必要事項を知ることができます。

読みのローマニズはヘボン式で、新分類目録のデスクマット下に「ヘボン式ローマニズ表」が置いてあります。

配列は字順配列ですから一語毎に区切らずアルファベット1字づつを比較してください。例えば

『経済援助』 KEIZAIENJO ……①

『経済学』 KEIZAIGAKU ……②

『経済と……』 KEIZAITO…… ……③

上記3冊の配列は①②③の順序に並びます。

図書の所在場所は、オンライン検索では画面に開、閉、参の略号で表示されますが冊子目録では判別できませんから「図書請求票」に記入してメインカウンターへ出して調べてもらってください。あるいは、開架閲覧室、参考室の所定の書架へ直接行ってみるのも一方法です。

全集、叢書等は書名索引の右端に記載してある文献番号で本編にあたと全巻を一覧することができます。

- (2) 1964年から1982年3月迄に受入・整理したもの（新分類）

（検索方法はカード目録）

目録の種類には分類、書名、著者名があります。

読みのローマニズはヘボン式で配列は語順配列ですから一語毎に区切って比較してください。例えば

『経済援助』 KEIZAIENJO ……①

『経済学』 KEIZAIGAKU ……②

『経済と……』 KEIZAITO…… ……③

上記3冊の配列は①③②の順序に並びます。

図書の所在場所はカードには記載されていないのでメインカウンターで調べます。

- (3) 1964年以前に受入・整理したもの（旧分類）

（検索方法はカード目録）

目録の種類は分類、書名、著者名、件名（冊子体で旧目録の上に置いてある）があります。

読みのローマニズは内閣訓令式で詳しくは旧分類目録のデスクマットの下に置いてあります。

配列は字順配列ですから一語毎に区切らずアルファベット1字毎に比較してください。例えば

『経済援助』 KEIZAIENZYO ……①

『経済学』 KEIZAIGAKU ……②

『経済と……』 KEIZAITO…… ……③

上記3冊の配列は①②③の順序に並びます。

図書の所在場所は書庫に限られますから利用に際しては「図書請求票」に記入の上、メインカウンターへ請求してください。

(注意)

旧分類目録には不備な点がありますので疑問な点がある場合は遠慮なくレファレンスカウンターへ申し出てください。

見つからない時は、みなさんが持っている情報をもとに、いろいろな目録をひいてください。

探している図書が貸出中かどうか調べる方法は「図書請求票」に記入してメインカウンターへ出すと係員が調べます。新分類図書は即時わかりますが、旧分類図書は少し時間がかかります。

〔逐次刊行物〕

逐次刊行物とは、終期を予定しないで定期的に刊行される資料のことで、雑誌・新聞類と、年鑑、白書類などを指します。但し本学では「国勢調査」関係は図書扱いとなっています。

検索にあたってはオンラインで全学の所蔵状況がわかりますが、これは別の「資料の探し方——オンライン目録検索について——」を参照してください。冊子目録は逐次刊行物検索コーナーにファイルで『同志社大学図書館所蔵逐次刊行物目録』（洋書編・和書編）があります。これには他部科にしか所蔵していないものは含まれていません。全学の所蔵を知るには『同志社大学所蔵逐次刊行物目録』（洋書編・和書編）を参照してください。その他雑誌の別冊や特別号を探す時は、「主要雑誌内容目次」（誌名→内容）「主要雑誌内容索引」（内容→誌名）がありますから目的により使いわけてください。

雑誌・新聞など

比較的良好に利用される雑誌等500誌の最新号、及びその中の200誌のバックナンバーは、それぞれ雑誌室に展示、配架されています。その詳細は雑誌室掲示板に、「展示雑誌一覧表」、「雑誌室誌名順リスト」で案内されています。それ以外のもの、即ち展示しない雑誌の最新号、未製本の最近号、上記以外の所蔵資料は「逐次刊行物請求票」に記入してメインカウンターへ請求してください。

白書・年鑑など

主要なものの最新号は参考室にあります。詳細は参考室入口に「参考図書室所蔵逐次刊行物目録」（分類順・誌名順）がありますから参照してください。記載各誌のバックナンバーの開架状況（参考室に何回分置いてあるか）もわかるようになっています。それ以前の資料は「逐次刊行物請求票」に記入してメインカウンターへ請求してください。

本学に所蔵していない資料に関して他大学宛紹介状を希望される場合は、係員が調査してから発行しますから即日発行できない場合もあります。予めご承知ください。

書庫の資料を請求したり、図書の所在場所、貸出中かどうかを調べるためには「請求票」に所定事項を記入して係員に提示してください。

「請求票」には図書用（白色）と逐次刊行物用（青色）があります。

それぞれに「分類」「記号」「巻次」「書（誌）名」記入欄がありますので「オンライン画面」「冊子目録」「カード目録」から正しく転記してください。

オンライン画面例

	分類	記号	巻次
11. 請求記号 :	423	G-1B	1
12. 書名著者 :	古典力学 上 ゴールドスタイン著 瀬川富士〔ほか〕訳		
26. 所蔵情報 :	〔図, 機〕		
27. 図書館 :	〔開架〕		
32. 書誌番号 :	84160020		

冊子目録例

著者索引例 分類; 記号; 巻次 文献番号
〔瀬川富士<<古典力学>>【423; G-1b; 1】……29748〕

本編例	文献番号	分類; 記号; 巻次
	29748	423; G-1b; 1
古典力学 上 ゴールドスタイン著 瀬川富士〔ほか〕訳 新版 京都 吉岡書店 1983 504p 21cm (物理学叢書 11a)		

カード目録例

親カード: 多巻物の時は必ず次のカードを見ること

951	Valéry, Paul.
V2-2	ヴァレリー全集 落合太郎〔等〕監修 東京 筑摩書房 1967-79 14冊 23cm

子カード

分類……951	Valéry, Paul	ヴァレリー全集
記号……V2-2		
巻次……(3)	3	: 対話篇 (1967)

(閲覧課)

蔵書構成と図書利用状況(概況)

◇ラーネッド記念図書館の蔵書構成

1986年の開館以来、毎年約10,000冊ずつ増加してきたラーネッド記念図書館の蔵書は、1989年8月現在で総冊数約76,350冊、雑誌307タイトルとなった。

第1～第3開架閲覧室の蔵書構成を分野別にみると、人文科学：和書約22,900冊、洋書約4,950冊、社会科学：和書約18,100冊、洋書約560冊、自然科学：和書約9,200冊、洋書約390冊、合計約56,100冊となっている。

和書の所蔵の多い分野を分類別にみると、経済(330)が5,381冊と最も多く、次いで日本文学(910)4,402冊、法学(320)3,625冊、社会学(360)2,474冊、日本史(210)1,869冊、政治(310)1,749冊、英米文学(930)1,708冊、教育(370)1,638冊、電気工学(540)1,347冊の順となり、社会科学一般・社会思想(300)、数学(410)物理(420)の分野も蔵書冊数が1,000冊を超えている。

洋書は、英米文学(930)が2,956冊と最も多く、洋書所蔵冊数の約半数を占めており、次いでフランス文学(950)、社会学(360)、ヨーロッパ史(230)となっている。

文庫・新書本は約10,000冊を所蔵しているが、新潮文庫が約2,700冊と最も多く、岩波文庫、中公文庫が共に約1,600冊、中公新書約850冊、岩波新書、講談社現代新書が共に約750冊となっている。これらに、事典・辞書・ハンドブックなどの参考図書約5,700冊、法令・判例集約1,160冊などを加えて、ラーネッド記念図書館の蔵書を構成している。

開館以来、教員推選図書(毎年9月に依頼)を軸にして蔵書内容の充実と蔵書冊数の増加を並列的に進め、既刊資料の所蔵調査により未所蔵資料の購入や、利用の多い分野の図書の複本化などを行ってきたが、今後も10万冊の蔵書に向けて進めて行きたい。レポート提出時や試験期などに特定の分野に利用者が集中するために資料が不足ぎみになる分野(1989年前期の例では、動物園、聖徳太子、元号、天皇制、シルクロード、香港、ペレストロイカに関する資料)については、資料の充実を図ると共に、1982年4月以降受入資料がコンピュータ検索可能になった今出川校地図書館所蔵資料の利用を進め、少しでも資料が足りない状態を無くするようにしたい。

◇ラーネッド記念図書館図書利用状況

図書の貸出冊数は年々増加し、1988年度の総貸出冊数は、56,500冊(和書55,200冊、洋書1,300冊)となっている。貸出冊数の多い分野を順にみると、

1. 法学(320) 4,436冊
2. 経済学(330) 3,166冊
3. 電気工学(540) 2,202冊
4. 社会学(360) 1,781冊
5. 数学(410) 1,816冊
6. 物理(420) 1,632冊
7. 日本文学(910) 1,505冊
8. 機械工学(530) 1,376冊

9. 日本史(210) 1,191冊 10. 政治(310) 1,104冊
文庫・新書本の貸出では、新潮文庫の貸出が群を抜いて多く10,133冊、次いで講談社現代新書1,818冊、岩波新書1,552冊、岩波文庫1,481冊とつづいている。文庫本の貸出は試験期になると極端に減少する。

1988年度のベストリーディングスは、

1. 入門マクロ経済学(中谷巖著)
2. 入門価格理論(倉澤資成著)
3. 経済学入門(今村宏・八田英二共著)
4. マクロ経済学(デュリーヨ著)
5. 機械工作 大学課程(稲田重男他著)
6. 民法総則(我妻栄著)
7. 憲法(佐藤幸治著)
8. ゼミナール日本経済入門(日本経済新聞社編)
9. 微分・積分(田島一郎他著)
10. 概説イギリス史(青山吉信、今井宏編)

文庫本では、赤川次郎の著作が圧倒的人気で1位から12位まで占め、星新一の著作が同一貸出回数で9位になっているのみである。文庫本で貸出回数が多い作家は前記の2名の他、高野悦子、田辺聖子、筒井康隆、阿刀田高、村上春樹、庄司薫、外国の作家ではアガサ・クリスティなどである。新書本では、講談社現代新書の「はじめての英会話」、「性格」、「中国語のすすめ」、岩波新書の「イギリスと日本」、「ことばと文化」、「魔女狩り」、「私の見たペレストロイカ」、「日本人の英語」、講談社ブルーバックスの「BASICプログラム入門」などがよく読まれている。

◇今後の収書について

利用の多い分野は開館以来ほとんど変動がなく、これまで利用の多い分野を重点的に資料収集した結果、蔵書冊数も多くなっている。今後の収書は、人文・社会科学の分野では、中国語、英語、フランス語、ドイツ語などの語学入門書、総合科目として設置されている「ヨーロッパの文化」、「イギリスの伝統と文化」、「日系アメリカ人の世界」、「ドイツの言語と文化」、「南山城の古代」、「京都の自然と文化」などの科目に関する資料、利用の多い法律、経済、日本文学、英米文学の資料、自然科学の分野では、数学、物理、電気工学、機械工学など利用の多い分野の図書の複本化などを中心に、教員の協力を得ながら新刊図書はもちろん既刊図書の中からも選んで蔵書の充実を進めて行きたい。併せて、田辺校地周辺・南山城地域を中心とする郷土資料を収集し、蔵書に特徴を持たせたい。又、限られた予算の枠内でより多くの図書が購入できるように、利用があまり多くないと思われる図書については、今出川校地図書館又はラーネッド記念図書館のどちらかで所蔵し、コンピュータ検索による所在確認、今出川・田辺両校地間の連絡便による図書の貸出によって利用の便を計って行きたい。

多くの労力と費用を使って収集した図書資料が死蔵されることのないように新規受入図書の展示・案内、テーマ別の資料紹介やリストの作成などにより所蔵資料を利用者にアピールするように考えたい。

1985-1988 図書館(今出川)利用統計

[はじめに] 1986年4月田辺校地で1・2年次の授業を開始するにともないラーネッド記念図書館を開館
1988年4月から貸出・返却システムを機械化し、それにとまない統計の内容を一部分変更

[1] 図書館外貸出冊数

年度	総計	新分類図書											別置	旧分類図書
		総記	哲学・宗教	歴史・地理	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術	言語	文学	学部文庫		
	146,157	2,287	9,716	8,542	39,650	19,648	21,059	2,363	5,337	2,707	17,674	10,353	5,793	983
85	開架 138,571	1,963	8,860	6,864	38,423	19,449	20,962	2,207	4,882	2,545	16,270	10,353	5,793	—
	閉架 7,586	324	901	1,678	1,227	199	97	156	455	162	1,404	—	—	983
	113,043	1,751	7,061	7,138	32,445	12,627	17,080	2,202	4,144	2,085	13,985	7,727	3,707	1,091
86	開架 105,995	1,458	6,322	5,512	31,190	12,474	16,962	2,103	3,760	1,936	12,844	7,727	3,707	—
	閉架 7,048	293	739	1,626	1,255	153	118	99	384	149	1,141	—	—	1,091
	96,724	1,705	6,464	6,442	32,422	11,725	13,669	1,963	3,912	1,771	11,150	865	3,339	1,297
87	開架 88,951	1,364	5,557	4,875	31,074	11,536	13,537	1,831	3,531	1,613	9,829	(*)865	3,339	—
	閉架 7,773	341	907	1,567	1,348	189	132	132	381	158	1,321	—	—	1,297
	104,556	1,630	6,348	6,803	31,602	12,496	14,659	1,884	3,576	2,170	10,269	5,778	6,161	1,180
88	開架 96,009	1,379	5,371	4,935	30,073	12,251	14,499	1,778	3,113	1,919	8,752	5,778	6,161	—
	閉架 8,547	251	977	1,868	1,529	245	160	106	463	251	1,517	—	—	1,180

[細部の内訳 (開架のみ)]

分類	320-329	330-339	360-369	540-549	930-938	939	学部文庫		
	法律	経済	社会学	電気工学	英文学	米文学	文学部	法学部	経済学部
1985	12,342	10,577	6,369	10,883	3,840	2,355	1,708	391	8,254
1986	10,300	9,011	4,757	8,614	3,331	1,998	1,054	229	6,444
1987	8,447	10,961	4,905	7,285	2,389	1,848	(*)75	(*)23	(*)767
1988	9,967	8,407	5,195	7,033	2,238	1,424	866	392	4,520

分類	別置文庫・新書				
	岩波文庫	岩波新書	中公新書	講談社学術	白水Uブックス
1985	2,800	1,791	1,202	—	—
1986	1,882	1,015	810	—	—
1987	1,803	896	640	—	—
1988	2,682	1,539	1,010	775	155

(*)1987年度の学部文庫統計はシステム変更作業のため年度途中から分野別に吸収して集計

[2] 閉架資料請求冊数

	1985	1986	1987	1988
新分類図書	15,927	14,203	13,762	16,660
旧分類図書	2,049	1,590	1,975 (旧も含む)	—
逐次刊行物	25,262	20,553	12,713	12,156

図書はこれらのうちから館外貸出手続をした数字を [1] の閉架の項に挙げている
旧分類図書とは1963年以前に整理したもの
逐次刊行物は館内閲覧のみ、1987年4月から雑誌のバックナンバー約7,000(合)冊を開架式とした

[3] 入館者数

1985	1986	1987	1988
1,098,030	835,261	777,631	791,396

[4] 文献複写 (セルフサービス分)

1985	1986	1987	1988
485,331	384,329	851,364	1,122,305

料金は1986年まで20円、1987年から10円

図書館(今出川)新分類図書蔵書統計

新分類図書

1989年7月現在

網 類		00	10	20	30	40	50	60	70	80	90	合計
		0 総記	蔵書タイトル数	32	1,157	2,769	150	300	88	111	274	185
	冊数	45	2,134	7,818	1,478	530	174	237	437	3,026	447	16,326
1 哲学	蔵書タイトル数	265	587	857	1,777	1,598	304	659	217	1,229	1,897	9,390
	冊数	569	691	2,110	3,226	2,359	443	982	558	3,118	3,291	17,347
2 歴史	蔵書タイトル数	1,409	3,884	1,146	889	65	259	22	24	2,926	1,363	11,987
	冊数	3,135	11,955	2,038	1,500	76	482	22	30	4,960	2,941	27,139
3 社会	蔵書タイトル数	1,777	3,850	6,470	9,810	523	659	4,924	3,950	1,794	359	34,116
	冊数	3,567	6,787	13,123	16,255	900	3,234	7,754	6,701	3,200	672	62,193
4 自然	蔵書タイトル数	840	2,915	1,365	1,168	242	501	877	172	300	1,455	9,835
	冊数	1,651	4,547	2,217	2,639	330	812	1,438	250	482	2,127	16,493
5 技術	蔵書タイトル数	1,454	700	536	1,181	2,348	127	471	763	289	76	7,945
	冊数	2,196	895	914	1,962	4,010	149	695	1,182	388	99	12,490
6 産業	蔵書タイトル数	313	1,139	88	17	30	89	80	1,238	451	172	3,617
	冊数	1,290	1,831	185	24	44	105	108	1,689	745	257	6,278
7 芸術	蔵書タイトル数	1,066	172	1,124	65	138	362	835	750	390	149	5,051
	冊数	2,435	235	2,278	109	217	664	1,178	1,151	676	226	9,169
8 言語	蔵書タイトル数	678	1,316	455	863	190	141	51	31	80	110	3,915
	冊数	874	2,309	621	1,573	324	225	73	35	116	150	6,300
9 文学	蔵書タイトル数	765	7,752	541	2,865	401	599	99	45	222	161	13,450
	冊数	2,521	18,707	1,169	4,577	720	1,129	113	60	499	261	29,756
											蔵書タイトル数合計	104,504
											蔵書冊数	合計 203,491

別置文庫・新書

	岩波文庫	講談社学術文庫	岩波新書	中公新書	白水Uブックス	文庫・新書合計
蔵書タイトル数 合計	2,068	603	1,192	906	76	4,845
蔵書冊数 合計	2,081	603	1,192	920	76	4,872

※ 新分類図書とは1964年4月以降整理した図書
別置文庫・新書は簡易整理をして開架式にだしているもの

音楽に関する二次文献

現代学生生活において音楽は、メディアの拡大・機器の発達に伴って、日常生活の中に定着し、娯楽・教養の域を越えて、必需品のようなものになりつつある様です。

このことはまた、聴くばかりでなく、音楽の読者も増大させていることと思われるので、今回は本館に所蔵する二次文献をピックアップしてみました。

[書誌]

1. 雑誌記事索引 人文科学編 国立国会図書館編・刊 1948～ (PO27; Z3)
昭和23年9月以降国立国会図書館に納本された雑誌の論文を採録。主題による分類の中を著者名のあるものはその50音順に、ないものはその後に論題名の50音順に配列(昭和50年よりすべて論題名順となる)収録誌名一覧、件名一覧、著者索引がある。昭和40年より人文科学編を人文・社会編と改題。
2. 雑誌記事索引 人文・社会編 累積索引版 シリーズXI 芸術・芸能・スポーツ 第5期以後はシリーズJ 芸術・芸能 日外アソシエーツ編・刊 1975～ (PO27; Z3)
前出①を、一括検索・適及的文献調査に便利な様、5～10年間隔で主題毎に累積し、再編成したもので分野別に11のシリーズに分け、現在昭23～29年、昭30～39年、昭40年～44年、昭45～49年、昭50～54年、昭55～59年の6期迄刊行されている。総合索引著者名編と件名編がある。
3. 音楽・演劇・芸能に関する17年間の雑誌文献目録 昭和23年—昭和39年 日外アソシエーツ編・刊 1981 (028.76; N)
前出②の第3期および第4期をもとにテーマ別の文献目録として使い易い様に再編成したものの一部で、雑誌文献約9,000件を収録している。主題別の文献目録のほか、巻末に事項索引(主題および人名)と、収録誌名一覧を付している。
4. 音楽・演劇・芸能に関する10年間の雑誌文献目録 昭和40年—昭和49年 日外アソシエーツ編・刊 1978 (028.76; N)
前出②の第1期および第2期をもとに、期間内の雑誌文献約13,500件を収録
5. 音楽・演劇・芸能に関する10年間の雑誌文献目録 昭和50年—昭和59年 日外アソシエーツ編・刊 1987 (028.76; N)
前出②の第5期および第6期をもとに、期間内の雑誌文献約6,000件を収録
6. 書誌年鑑 朝倉治彦 深井人詩編 日外アソシエーツ 1982～ (028; A3)
昭和55年1月以降発表された書誌の一年毎の目録。主題書誌、人物書誌、出版目録、所蔵目録、雑誌総目次を収録。主題配列は「日本十進分類法」新訂8版に準拠しているので、760の音楽の箇所を見れば良い。
7. 国立国会図書館所蔵主題別図書目録 昭和23～43年 18 音楽・演劇・スポーツ 日外アソシエーツ編・刊 1985 (029.11; K4-6)
「国立国会図書館蔵書目録」の昭和23年～33年と昭和34～43年の2期分中、音楽・体育・スポーツ・遊芸・娯楽に分類される図書を収録。巻末に50音順の著者索引
8. 改訂本邦洋楽関係図書目録 小川昂編 音楽之友社 1965 (028.76; 0)
明治初年から昭和39年末までに我国で出版された洋楽関係図書を収録。若干の邦楽関係書も含む
9. 洋楽の本—明治期以降刊行書目— 小川昂編 民主音楽協会 1977 (028.76; Y)
前出⑧の改題改版、明治初年から昭和50年末迄のもの7,620点を収録。主題による分類目録を基本に著者索引と書名索引がつく
10. 洋楽の本—明治期以降刊行書目—追補第1巻 小川昂編 民主音楽協会 1987 (028.76; Y)
前出⑨の追補。昭和51年から昭和60年迄に出版されたもの4,055点、それ以前のもの475点を収録
11. 音楽関係逐次刊行物総合目録 1974年版 音楽図書館協議会編・刊 1974 (028.76; 02)
音楽図書館協議会に加盟する図書館の所蔵する逐刊物のリスト。和文編・欧文編に分け、アルファベット順に配列してある。
12. 音楽関係逐次刊行物所在目録 1976年版 音楽図書館協議会編・刊 1976 (028.76; 02-2)
13. 作曲家全集・楽譜叢書所在目録 増補改訂版 作曲家全集・楽譜叢書所在目録編集委員会編 音楽図書館協議会 1983 (028.76; 02-3)
全国25図書館に収められている音楽作品のリスト。

個人全集編と叢書編に分けられており、楽曲の楽譜自体をさがす時に使用すると良い。見出しはアルファベット順で欧文使用。所蔵館の中には、同志社女子大学図書館も含まれている。

14. 音楽文献要旨目録 RILM日本国内委員会編・刊 2 (1974)～ (028.76; R)
Répertoire International de Littérature Musicale (国際音楽文献目録編集委員会)の発行するRILM abstracts (音楽文献要旨目録)の国内版。昭和42年以降国内で公けにされた音楽に関する著書・論文等々の中から委員会が選定したもの、および学術的な定期刊行物・学位取得論文等を収録。巻末に、著者名と事項を同時にアルファベット順に語順配列した索引がある。
15. 同志社大学図書館中野譜庫目録 同志社大学図書館編・刊 1987 (028.763; N)
昭和60年、音楽家中野二郎氏より寄贈された、ギター・マンドリン関係の楽譜を主とするコレクション約12,000点の内、マンドリン関係の楽譜約6,700点のリスト。中野譜庫は氏が65年をかけて蒐集せられたもので、今日では入手不能な貴重品も数多く含まれ、質量とも世界でも有数のものと評価される。

[辞典]

16. 音楽大辞典 全6巻 平凡社編・刊 1981～83 (760.3; 05)
西洋音楽偏重を排して、日本と古今東西の音楽に関する全分野を網羅。体系的関連性を重視した大中小項目を50音順に配列し、重要項目に主題文献の解題を付す。第6巻が人名、事項の索引になって居り、和洋いづれからでも検索出来る。
17. 標準音楽辞典 音楽之友社 1966 (760.3; H)
後出⑱ ⑳の旧版(1954～55)の2巻の音楽辞典を合せて改訂した1冊の百科辞典的性格の辞典。楽語、人名、曲名などあらゆる分野にわたる約10,000項目を収録。音楽学の最新の知識にもとづく解説がほどこされる。写真、図版、譜例多数
18. 標準音楽辞典 補遺 音楽之友社 1973 (760.3; H)
単に本巻の追補、補充だけでなく、特にヨーロッパ以外の国の音楽についての新項目が加えられている。
19. 新音楽辞典 一楽語一 浅香淳〔他〕編 音楽之友社 1977 (760.3; S)
人名、曲名以外の音楽用語約5,500項目を網羅。各見出しのあとに、英独仏伊4カ国語の同義語を列記。巻末に欧文索引。各国語の発音をカタカナ表記してある。
20. 新音楽辞典 一人名一 浅香淳〔他〕編 音楽之友社 1982 (760.3; S)
団体も含む約2,800項目を収録。詳細な欧文索引付。この2冊は、「新版音楽辞典」(760.3; 02)「岩波小辞典 音楽 第二版」(760.3; I)などと共に、ハ

ンディ辞典として好適

21. 音楽テーマ事典 全3巻 浅香淳編 音楽之友社 1983 (760.3; 06)
「最新名曲解説全集」(760.8; S3)に収録された約3万の主題、楽想、導入部旋律、印象深いフレーズ等のほとんどの譜例を作曲者の生年順に配列。音名、階名、日本語訳題、原題による索引がついており、うる覚えのメロディーから曲名を引き出す時や、ある曲の主題等が知りたい時に便利。少々の音楽的素養を要する為、誰でも使いこなすという訳には行かないかも知れないが、今迄にないタイプの辞典である。
22. 日本音楽大辞典 平凡社 1989 (768; N2)
日本音楽の全時代、全分野を一冊に集約。項目を事項編、人名編、曲名編に分け、事項編は総論、音楽理論、楽器、音楽史を体系的に記述し、「読む事典」としての性格を持たせる。行きとどいた付表・系図・索引がつかう。
23. 最新音楽用語事典一楽典からAV用語まで一リットーミュージック 1987 (760.3; S3)
コンピュータ関連用語や、ビデオ機器の用語なども、含む最新の単語についてわかり易く解説する

[年鑑・索引・便覧]

24. 音楽年鑑 音楽之友社編・刊 1949～ (762.1; 0)
1年間の音楽界に関するすべての出来事を網羅。楽界総論、楽界関係人名簿、音楽関係団体、参考資料の各項より成る。
25. 洋楽索引 上・下 小川昂編 民音音楽資料館 1975～81 (760.3; Y)
ある外国楽曲について、作曲者は誰か、原題は何か、その訳名はどうなっているか、の三つの索引により、音楽作品の名称と作曲家が割り出せる。
26. 西洋音楽史年表 アルノルト・シェーリング編 音楽之友社 1971 (762.3; S3)
27. 音楽資料探訪—東京とその周辺— 音楽図書館協議会編・刊 1979 (760.6; 0)
東京とその周辺の音楽資料を有し、それを公開している53機関の所蔵する資料の詳細が示されている。関西版もいずれ刊行されるものと思われる。

その他、個々の音楽家に関する伝記、作品研究、評論については新分類の762.1から762.7を見て下さい、又旧分類の983, 987をも見て下さい。

「第1回・第2回国会」

衆・参議院図書館運営委員会会議録について

帝国議から、新憲法下の国会へと議会が一変し、戦後民主主義の誕生を迎えた。当時の国会議事録によって、国立国会図書館設立の理念を理解し、議会制民主主義の原点、理想に燃えた時代の息吹にふれることができる。

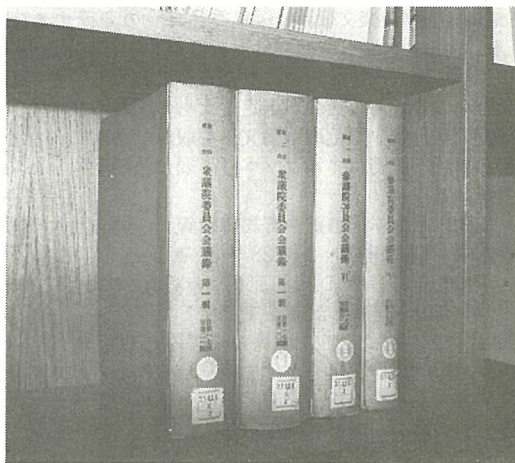
敗戦の教訓から、新日本建設の基礎となる議会図書館の必要性が、痛感されるようになった。国権の最高機関である国会が、立法化のためのあらゆる資料を収集管理し、国会議員の要求に応じて、調査を行なう機関の設置が急務となった。最後の帝国議会において成立した国会図書館法は不十分なため、第1回国会の1947年6月に、衆・参議院図書館運営委員会が初めて開催され、新しい構想をもった法案制定のための審議がなされた。

以下、「衆・参議院委員会会議録」のなかから、同委員会の審議内容を紹介する。

国会図書館の運営について。館長の人選問題も含めて、広範囲な方面からの意見聴取を目的として、参議院図書館運営委員長羽仁五郎名で調査依頼を行なっている。他方衆議院では、人事の問題を民間に諮るべきではないと否定的な見解をとっている。なお、同志社総長湯浅八郎も回答を寄せている。

国会図書館の任務について。両院議員の立法活動に奉仕し、行政各省および司法の調査活動に対しても奉仕する。行政、最高裁判所の図書館が、国会図書館の分室の役割をも果たす。また国会図書館が同時に国立図書館としての性質をもち、国民に対しても奉仕する。

館長の人事について。参議院では、全会一致で中井正一を、衆議院では、「前科をもっておる人」（彼は戦前治安維持法違反で検挙されている）は、適当でないと激しい論戦を展開し、二転三転の末、金森徳次郎を推薦した。両院議長の協議の結果、金森館長、中井副館長が紆余曲折を経ながらも任命された。



かくして、1948年2月9日国立国会図書館法は公布施行された。同法前文の「真理がわれらを自由にする」を起草した羽仁五郎は、「戦前の議会は調査機関を備えず、軍部・行政の一部が情報を管理操作し、真理によらない立法によって国民を誤った方向に導いた。その反省を前文に結実させた。」と語っている。第1章（設立及び目的）の意図するところは、あらゆる政治資料を人民主権の国会の管理のもとにおき、文部省などの官僚支配から解放し、図書館の自由を確保することにあった。

現在、文部省主導ですすめられている学術情報システム、IFLA東京大会における前皇太子夫妻列席という一連の図書館界の流れをみるにつけ、40余年前の国会議事録が、現代においても示唆に満ちた図書館論、或いは戦後図書館史の貴重な証言となって迫ってくる。

“びぶりおてか”

同志社大学図書館報 No.46 1989年10月1日 発行

発行 同志社大学図書館 京都市上京区今出川通烏丸東入 電話 251-3971

編集責任者 西田逸郎 (図書館庶務課長) 印刷 眞興社